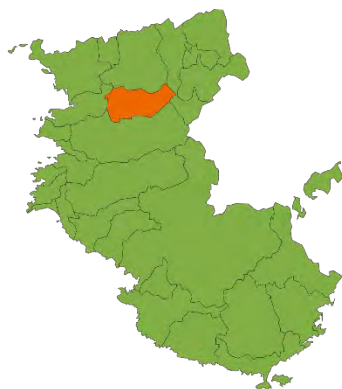


和歌山県海草郡紀美野町

地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生



【活動の基本情報】

参加学生数：13名

(1年生：2名、2年生：7名、

3年生：3名、4年生：1名)

活動期間：2018年4月～

担当教員：山岸大二郎

1. 活動実施の経緯

中田地区にある棚田を再生しようと新たな活動（中田の棚田再生プロジェクト）が開始し、小川地域外からの住民が耕作放棄され荒れた土地を棚田として蘇らせようと活動してきた。高齢化による地域活動の減少、離農による耕作放棄地の増加などの課題を抱えるなか、大学生を含めた様々な立場や世代の方と交流しながら活動を進め、棚田から広がる地域の活性化に取り組んできた。

2. 活動の内容

今年度は、月に一回程度は棚田に訪れて活動し、棚田再生プロジェクトに関わる多様な関係者と交流を深めることにできた。また、地域側から依頼のあった、成果や活動内容を「見せる」ことについて検討すべく、より効果的な SNS 等を活用したプロモーションに向けて、次の三つの活動を行った。まず、SNS 上の棚田の写真の分析を行い、棚田を訪れる旅行者の行動について理解するよう努めた。次に、現地でのアンケート調査を実施し、人々がどの様にして中田の棚田について知り、訪問するに至ったか検討した。さらに、昨年度設置したビューポイントの看板の役割について地域の方からヒアリングし、看板の重要性を再認識したうえで、修復作業を行い景観の維持に努めた。来年度は、調査結果をまとめて、地域側に新たな視点を提供し、中田の棚田再生に繋がるよう取り組んでいきたい。

3. 活動を通じて

棚田という場所で、学生は棚田再生にかかる知識やスキルを身に着けるだけでなく、大学の座学で学んだ専門的な理論や知識を実験的に応用することで、それら専門知識の理解促進につなげてきた。次年度は、プロジェクトの最終年度となるので、これまでの活動の成果をまとめ地域の方々に共有していきたい。

4. 成果ポスター

紀美野町小川LPP 地区×学生による観光・文化・交流 情報発信と棚田の再生

ここが 私のアナザースカイ。

紀美野町小川地区

和歌山県の北部に位置する紀美野町。その中でも壮大な自然に溢れる小川地区。中田の棚田をはじめとした観光地が存在します。近年、その自然に魅せられ、多くの観光客や移住者が訪れるようになってきました。

小川LPP

私たちは4回生1名、3回生3名、2回生7名、1回生2名で活動しています。学生視点での地域振興を目標とし、現地の方々との意見交換などを行いながら、地域の課題解決に向けて活動しています。

2023年度の主な活動

- 中田の棚田の再生活動
 - ・棚田内の草刈りや野菜の種まき、木の強剪定など、景観維持のための活動を行いました。
- イベントへの参加、運営補助
 - ・田植えイベントや収穫祭、SAVE JAPANプログラムなどの棚田で開催されるイベントに参加したほか、リポートレッキングや両生類フォーラム等、地域で行われるイベントの運営補助を行いました。
- 中田の棚田 看板修復
 - ・昨年度作成した中田の棚田の看板が雨風にさらされて劣化していたため、綺麗に修復しました。
- 調査研究部門
 - ・Instagramで「#中田の棚田」と検索してヒットした100件の投稿の写真と文章から、時間帯や天気、私たちが制作した看板がInstagramの投稿にどのような影響を与えるのかを分析しました。
- 活動PR部門
 - ・1年を通して、私たちの活動内容を発信しました。その中で、中田の棚田再生プロジェクトが運営している。SNSアカウントとの共同投稿を行うなどし、私たちの活動のPRを主として行いました。また、棚田が発信している情報をどのように得たかなどのアンケート調査を行い、今後の棚田のSNSの運用について検討しました。

田植え(5月)

草刈り(7月)

収穫祭(11月)

イベント補助(12月)

看板修復(12月)

石積み(1月)

来年度の活動方針

- 月1回以上の現地活動
 - 昨年よりも地域での活動を大切にし、積極的に地域の方々と活動する。
- 地域と学術的連携を深める
 - 活動の中でアンケート調査・インタビュー調査・参与調査等を行い、得られたデータを共有するなど、地域と連携して研究を進めていく。
 - 観光学術学会でのポスター発表を目指す。

小川LPP
Instagram

中田の棚田
再生プロジェクト
Instagram

写真の分類 (n=100)

Song and Kim (2016)の写真分析フレームワークを応用し、抽出した100件の投稿画像の分析を行った。

◎自然風景の写真が最も多くの投稿に使用されていることから、中田の棚田に「自然風景の良さ」を人々は求めていることが分かる。

2023年度和歌山大学観光学部LPP合同報告会

19

2023 年度 LPP 合同活動報告会 実施報告

和歌山県海草郡紀美野町

テーマ：地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生

他のプロジェクトの年間の活動報告等を聞く貴重な機会であるため、どのプロジェクトのブースも学生や受入地域の方々を含めた多くの人であふれていたように感じる。紀美野町小川地区 PP のブースでは、受入地域の方々が多く訪れていただいたこともあり、発表後の意見交換がとても活発に行われた。地域の方々と今年度の活動を振り返りながら、学生と地域の関わり方について考えを共有した。また、発表に関してもスムーズに行うことができ、たくさんの質問をいただいた。その中では、1年間の活動で何を得心かに対して、自分たちが成長していく様子を実感し、試行錯誤の結果が現れていく様子を知れたことが活動の成果であると伝えたほか、データの分析から見えた今後の展望としては、季節別のデータの数をみれば冬が少なかったため、冬に人々が来るようなイベントや目的が必要だと考えた。また、LPP の継続における課題については、アクセスの悪さなどから途中から来なくなる人が多いことを挙げ、最初から地域の方々と関係を作り、定期的に参加する雰囲気を作ることが重要であると感じた。加えて、フォームには、LPP としてできることを行っている方針が、地域貢献に繋がっているのではないかと的好评な意見をいただいた。メンバー間での活動意欲の偏りに付いての指摘もあったが、プロジェクトとしてもその点は課題に感じており、次年度は全メンバーが意欲的に活動に参加できるような仕組みを検討していきたいと感じた。

プロジェクトとして1年間の活動を客観的にふりかえることができるよい機会であり、他のプロジェクトの活動を知るなどして刺激を受けることができる機会でもあった。加えて、受入団体の方々とも密に意見交換をする機会にもなった。この報告会でいただいたご意見や指摘、また私たち自身が得た知見等を活かし、次年度も積極的に活動をしていきたい。

